科目名	会計上の見積りの監査【ゼミナール】								
分類コード	監査 210	**学年**	J2	**時期**	前期	**必修**	―	**単位**	3
講義形態	ライブ講義								

受講の前提及び事前準備

監査 210「会計上の見積りの監査」を受講完了しておくことが望ましい。
監査基準報告書 540「会計上の見積りの監査」を通読しておくことが望ましい。

講義内容（指導目的）

＜補習生が以下の１～４の目的を達成するために、ディスカッションの前にファシリテーターから説明する＞

1. 会計上の見積りの性質を理解する。**≪監査≫**
2. 会計上の見積りに関するリスク評価手続を理解する。**≪監査≫**
3. 会計上の見積りに関する重要な虚偽表示リスクの識別と評価を理解する。**≪監査≫**
4. 会計上の見積りに関して評価した重要な虚偽表示リスクへの対応について理解する。**≪監査≫**

＜以下の５はファシリテーター主導のもとに実施する＞

5. 過去の監査事例（監査提言集、監査事務所検査結果事例集）を踏まえ、会計上の見積りの監査に関する理解を深める。（ディスカッションを実施することにより、具体的に監査上のリスクやリスク対応手続を考える。）**≪監査≫**

キーワード

会計上の見積り、固有リスク要因（見積りの不確実性、複雑性、主観性、その他の固有リスク要因）、バックテスト、見積手法、重要な仮定及びデータの選択と適用、経営者の仮定の適切性、経営者の偏向、特別な検討を必要とするリスク、職業的懐疑心、重要な会計上の見積りに関する注記事項、会計上の見積りの合理性

到達目標

1. 監査基準報告書 540「会計上の見積りの監査」の内容を説明することができる。
2. 過去の監査事例を踏まえ、会計上の見積りの監査を適切に行うことの重要性を理解した上で、会計上の見積りに関する監査上のリスクとポイントを説明することができる。
3. 会計上の見積りについて必要な監査手続を立案し、実施することができる。

参考文献

・監査提言集（日本公認会計士協会 監査・規律審査会）
・監査事務所検査結果事例集（公認会計士・監査審査会）